

令和 8 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

「次代の地域社会における良識ある担い手」を育成するため、生徒一人ひとりに次の４つの力を育み、生徒の自己実現を支援する総合学科高校をめざす。
1 自らが学び、考え、表現し、主体的に行動できる力
2 将来の目標を具体的に設定し、それに向かって努力する力
3 人や地域とのつながりを大切にし、地域社会の発展に貢献できる力
4 豊かな人権感覚を身に付け、より良い人間関係を築くことのできる力

2 中期的目標

1 「確かな学力」の育成 （１）生徒が授業内容に興味・関心を持ち、「わかる」授業づくりを進めるとともに、基礎学力を定着させ、自ら学習する態度を身に付けさせる。また、観点別評価を取り入れた授業展開、評価を踏まえた継続指導を行うとともに、１人１台タブレットの積極的な活用を図る。 ア 教務部と首席を核に、公開授業、研究授業及び授業アンケート等を活用した授業改善に組織的に取り組むとともに、観点別評価の適切な実施と評価後の指導に取り組む。 ※ 学校教育自己診断（生徒）の「授業はわかりやすい」の肯定率を令和 10 年度で 85％以上。（R5 74.8％、R6 75.0％、R7 80.3％） 学校教育自己診断（生徒）の「学習の評価について納得できる」の肯定率を令和 10 年度で 85％以上。（R5 77.3％、R6 74.6％、R7 80.6％） イ 基礎的・基本的な知識・技能の定着をめざし授業の工夫・改善を図るとともに、單元ごとの評価に基づく事後指導に取り組み中退防止につなげるとともに、１人１台端末の適切な活用に取り組み、定期的な校内研修により、教員のタブレット活用力の向上を図る。 ※ 本校独自の３年生対象アンケートで、「知識や理解力が身についた」の肯定率を令和 10 年度で 90％以上（R5 90.9％、R6 87.3％、R7 86.2％）。 学校教育自己診断（生徒）の「授業においてタブレットを活用している」の肯定率を令和 10 年度で３年生 85％以上を維持、全体 85％以上。（R5 ３年生 87.0％全体 83.6％ R6 ３年生 90.7％全体 82.8％、R7 ３年生 86.6％全体 78.9％）。 （２）「主体的・対話的で深い学び」の実現をめざし、自分で調べ、考え、表現・発表する力を育てる授業を行う。 ア 「産業社会と人間」「総合的な探究の時間（GS）」の取組みと各教科の指導を連携させて、グループワーク等の協同学習を推進し、生徒の学習活動を充実させることにより、生徒が自ら学習する態度を育む。 ※ 学校教育自己診断（生徒）の「授業では、自分の考えをまとめたり、発表する機会がある」の肯定率が令和 10 年度で 78％以上。（R5 68.4％、R6 71.7％、R7 75.2％） ※ 本校独自の３年生対象アンケートで、「考える力や表現する力が身についた」の肯定率を令和 10 年度で 90％以上。（R5 86.5％、R6 88.2％、R7 86.4％） イ GS の取組みと教科学習の中で、発表する機会を設け、１年次からの段階的な実施により、生徒がタブレットを活用してプレゼンテーションを行う能力を段階的に高め、課題研究の発表会の充実を図る。 ※ 本校独自の３年生対象アンケートで、「タブレットを活用してプレゼンテーションを行う能力が身についた」の肯定率を令和 10 年度で 88％以上。（R5 84.4％、R6 81.8％、R7 81.3％） 2 将来の目標に向かって努力する生徒の育成 （１）理解・納得に基づく生活習慣の形成及び規範意識の醸成とともに、高校生として望ましい態度とマナーを育成する。 ア 遅刻等の状況を改善するとともに、授業規律を確立させる。 ※ 遅刻件数を令和 10 年度には 12,000 回以下とし、それ以降も毎年減少させる。（R5 10,639 回、R6 12,408 回、R7 19,842 回） ※ 学校教育自己診断（生徒）の「生活規律や学習規律などの基本的習慣の確立に力を入れている。」の肯定率が令和 10 年度 80％以上。（R5 76.1％、R6 74.1％、R7 78.8％） イ 「ダメなものダメ」の指導方針を教職員全体で共有しつつ、画一的に罰則を与える指導ではなく、ダメな理由を適切に理解させられるよう、個々の生徒の課題を踏まえ、生徒や保護者の思いをくみ取った、対話を重視した生徒指導を行う。 ※ 学校教育自己診断（生徒）の「悩みや相談に親身になって応じてくれる先生が多い」の肯定率が令和 10 年度で 85％以上（R5 81.9％、R6 81.1％、R7 84.9％） ※ 学校教育自己診断（生徒）の「学校生活についての先生の指導は納得できる。」の肯定率が令和 10 年度で 80％以上。（R5 66.3％、R6 67.5％、R7 72.5％） （２）修正した進路指導計画に基づき、１年次からのキャリア教育の充実を図るとともに、卒業後を見据えた進路意識を高めること等を通して自己実現を支援する。 ア 「産業社会と人間」「総合的な探究の時間（GS）」の取組み等を通して、進路目標を具体的に果たせるとともに、自己の努力目標を明確にさせる。 ※ 学校教育自己診断（生徒）の「将来の進路や生き方について考える機会がある」の肯定率が令和 10 年度で 90％以上。（R5 87.5％、R6 86.7％、R7 84.9％） ※ 本校独自で実施する進路実績満足度及び進路決定率（３月末）とも毎年 90％以上。（「満足度」R5 89.7％、R6 90.2％、R7 95.5％）「決定率」R5 85.4％、R6 85.8％、R7 96.6％） イ 資格取得の支援に努めるとともに、進学希望生徒の計画的講習など適切な学習機会の提供を行う。 ※ 「漢検」等の資格取得者：合格率を維持（R5 64.7％、R6 41.4％、R7 31.1％） （３）夏季休業中に教員対象の企業研修を実施し、現在の企業の人材活用、経験の少ない社員の指導方法等を学ぶことで、管理・注意中心の生徒指導から脱却した、生徒を伸ばす生徒指導の方法の学びと実践に繋げるとともに、企業との関係性の中で進路指導力および人間関係力の向上を図る。 ※ ５名程度の教員を対象に実施し、その研修成果の発表会を行い、他の教員と情報共有を行いつつ、次年度に繋げていく。 3 安全安心で魅力ある学校づくり （１）生徒一人ひとりが自らの課題に向き合い課題を解決しようとする意欲を育み、他者を大事にして生徒同士がつながる取組みを推進する。 ア 生徒の学校生活満足度を高め、自分自身も他者も大事にしていく意識を育む集団づくりの取組みを一層推進する。 ※ 学校教育自己診断(生徒)の「伯太高校に行くのが楽しい」の肯定率が令和 10 年度で 80％以上、「自分の学級は楽しい」が 80％以上。（「高校に行くのが楽しい」R5 67.7％、R6 72.4％、R7 73.7％「学級は楽しい」R5 76.1％、R6 80.1％、R7 81.0％） イ 校内の環境及び施設設備を充実させ、部活動を活性化させる。 ※ 部活動の加入率を令和 10 年度で 35％以上。（R5 30.3％、R6 32.8％、R7 37.0％） （２）あらゆる教育活動を通じて、生徒の人権を大切にした指導を徹底するとともに、人権教育を計画的・総合的に推進する。 ア 人権計画の改善を図り、人権及び人権問題に関する正しい理解を深め、人権 HR の内容の見直し、充実により様々な人権問題（子ども、同和問題、男女平等、障がい等）の解決につながる教育活動を推進する。 ※学校教育自己診断(生徒)の「伯太高校の人権教育は、あなたが学びたいことに応えている」の肯定率が令和 10 年度 80％維持。（R5 77.3％、R6 82.7％、R7 85.7％） ※学校教育自己診断(生徒)の「さまざまな立場の人や自分たちの人権について学ぶ機会がある」の肯定率が令和 10 年度 90％以上。（R5 88.0％、R6 89.2％、R7 87.6％） イ 生徒の個別の状況を把握、共有し、個に応じた適切な指導を、組織的にかつカウンセリングマインドをもって行い、SC や SSW の活用及び外部連携を図ることに より、生徒の状況の改善、学校生活の安定に努める。 （３）地域等とつながる取組みを進め、地域社会に貢献する意識を醸成する。特に、キャリア教育の充実のために、地域の企業の人事や専門学校、大学、短期大学の担当者および卒業生等の話を聞く機会を多く設定する。また、系列の充実に向け、地域の専門学校や大学、保育所等の外部施設等との連携による授業を令和 8 年度に確立させるため、協議を進めるとともに、試行的に様々な授業等を実施していく。 ア GS や HR の時間を活用し、人事担当者、広報の担当者と卒業生等の話を実際に聞く機会を多数設け、事前事後指導を含めキャリア教育を深めるとともに、地域に貢献する姿勢を育む。 イ 系列の充実を図るため、外部講師の活用だけでなく、地元和泉市や近隣の学校園等と連携する取組みや地域の保育所や介護施設、小学校などと連携した授業や活動を充実させるための取組みを進める。 ※ 地域のあいさつ運動・清掃活動等の継続、令和 9 年度を見据えた外部施設等との連携協議を進め、学習活動を実践する。 4 教職員の組織的・継続的な人材育成等 （１）教職員の組織的・継続的な育成を行う。 ア 教職経験年数の少ない教職員について、研究授業及び校内研修の機会や分掌業務等の OJT を基本に育成する。 ※ 学校教育自己診断(教職員)の「初任者等、経験の少ない教職員を学校全体で育成する体制がとれている」の肯定率が令和 10 年度で 70％以上。（R5 46.1％、R6 47.2％、R7 70.6％） イ 概ね 10 年までの教職経験年数の教職員を学校組織の中核として配置し、課題解決を意識した業務遂行等を通して、ミドルリーダーを育成する。 （２）教職員の働き方を改革する。 ア 教育職員の働き方改革を推進し、教職員の長時間労働を改善するため、業務全般を見直し、分掌業務の改善を図るとともに、教職員に業務の工夫・改善を促す。 ※年間の時間外在校等時間 720 時間を超える教育職員をゼロにする。（R5 0 人、R6 0 人、R7 0 人） ※年間の時間外在校等時間が 360 時間を超える人数を前年度よりも減少させる。（R5 22 人、R6 18 人、R7 14 人） イ 大阪府部活動の在り方に関する方針に基づき、適切な部活動の実施を徹底し、特に、土日のクラブ活動については、各時期における教職員の業務負担を考えて、土日の付添を強制的に制限するなど、ペアリングによる合同部活動の趣旨も生かした対応を図ることで、部活動による長時間勤務の縮減を図る。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析	学校運営協議会からの意見

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的 目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R7年度値]	自己評価
1 「確かな学力」の育成	(1)「わかる」授業づくりと基礎学力の育成 ア 組織的な授業改善と観点別評価の実践と活用	(1) ア・研究授業・公開授業の積極的な実施と観点別評価の適切な実施に加え、教員研修・協議による確実な授業改善及び観点別評価方法の充実及び徹底を図る。 ・「産業社会と人間」「総合的な探究の時間」(GS)の取組みと各教科の授業方法の連動により、「主体的・対話的で深い学び」の実現をめざした授業を推進する。 ・单元ごとの観点別評価を活用した生徒への事後指導の充実により生徒の意欲向上を図る。	(1) ア・研究授業等15回以上[10回] ・学校教育自己診断(生徒)「授業はわかりやすい」の肯定率80%以上維持[80.3%] ※観点別評価の基準の定着 ・学校教育自己診断(生徒)「学習の評価について納得できる」の肯定率80%以上を維持[80.6%] ・授業力向上・授業改善のための研修等2回[1回] ※授業力の向上 ※評価の基準の確立	
	イ 基礎学力の定着とタブレットの活用、学習意欲の向上 (2)「主体的・対話的で深い学び」の推進 ア 協同学習の効果的活用と充実 イ 発表機会の充実、タブレットを用いた発表スキルの向上	イ・朝学習とGSの連動により、学習意欲の向上と、基礎学力の定着、キャリアパスポートの運用を図る。 ・観点別評価における授業改革と併せ、タブレットの授業内での活用を推進する。 (2) ア・GSと連動させ、グループワーク等の協同学習の効果的活用と充実を図る。 イ・GSにおけるキャリア教育を充実させるため、タブレットを活用した、生徒の発表機会を計画的に実施し、タブレットを活用したプレゼンテーション能力の育成を図る。	イ・独自アンケート「知識・技能が身についた」の肯定率90%以上を維持[3年生86.2%] ・学校教育自己診断(生徒)「授業においてタブレットを活用している」の肯定率3年生85%以上を維持、全体85%以上[3年生86.6%、全体78.9%] (2) ア・学校教育自己診断(生徒)「自分の考えをまとめたり、発表する機会がある」の肯定率75%以上[75.2%] ・独自アンケート「考える力や表現する力が身についた」の肯定率90%以上[3年生86.4%] イ・独自アンケート「タブレットを活用してプレゼンテーションを行う能力が身についた」の肯定率85%以上[3年生81.3%] ※タブレットの有効活用 ※プレゼンテーション能力の向上	
2 将来の目標に向かって努力する生徒の育成	(1)理解納得に基づく生活習慣の形成、規範意識の醸成に係る取組みの推進 ア 遅刻指導の工夫と授業規律の確立	(1) ア・朝学習を活用して目標設定、その振り返りを習慣化させることで、基本的な生活習慣について生徒の認識を高め、遅刻件数の減少や規範意識の醸成をめざす。 ・授業の大切さやともに学ぶ意識を醸成することで、授業中の私語等を減らし、授業規律を確立させる。	(1) ア・遅刻件数12,000回以下[19,842回] ※対話による遅刻指導 ・学校教育自己診断(生徒)「学校生活についての先生の指導は納得できる。」の肯定率80%以上[72.5%] ・学校教育自己診断(生徒)「生活規律や学習規律などの基本的な生活習慣の確立に力を入れている」の肯定率80%以上[78.8%] ※対話的な指導の継続 ※「校則」生活・学習規律の検討	
	イ 生徒理解にたった個に応じた生徒指導の充実 (2)1年生からのキャリア教育の充実 ア 進路目標の早期設定の取組み イ 資格取得支援とインターンシップ充実、進学向け学習機会の提供 (3)企業研修の実施と生徒を伸ばさる指導への転換	イ・画一的罰則によらず、生徒の状況把握、理解、共有により、生徒や保護者の思いをくみ取る生徒指導をより進めていく。 (2) ア・修正した進路指導計画に基づき、ガイダンス機能を一新、充実させ、企業、専門学校、大学、短期大学等、外部の方々と卒業生を活用した学習の機会と事前事後指導を基本に、将来の就労を意識した具体的な進路目標をもたせ、継続して努力する力を育てる。 イ・資格取得のための取組みを充実させる。 ・進学のための指導・取組みについて、勉強の習慣づけや進学に向けた講習(以下進学講習という)を組織的、継続的に実施する。 (3) 夏季企業研修を実施し、生徒を伸ばす指導の実践に繋げ、教員の人間関係力を育成する。	イ・学校教育自己診断(生徒)「悩みや相談に親身になって応じてくれる先生が多い」の肯定率85%以上[84.9%] ※上記アの対応も踏まえ、生徒と教員との対話機会の拡大を図る。 ・学校教育自己診断(生徒)「学校生活についての先生の指導は納得できる」の肯定率73%以上[72.5%] (2) ア・学校教育自己診断(生徒)「将来の進路や生き方を考える機会がある」の肯定率88%以上[84.9%] ・進路実績満足度90%以上を維持[95.5%] ・進路決定率90%以上[96.6%](2月末) ※生徒の動向分析とGSの時間を活用した指導の充実を図る。 イ・「漢検」等の資格試験の合格率を維持[31.1%] (3) 夏季企業研修参加者5名、事後研修会の開催[5名]	

府立伯太高等学校

3 安全安心で魅力ある学校づくり	(1) 生徒が他者を大事にして生徒同士がつながる取組み ア HR 活動及び学校行事の充実	(1) ア・学年や学級を基本に他者を大事にして、生徒たちがつながることを意識した活動を工夫するとともに、教員の適切な声掛けにより、その充実を図る。 ・学校行事において、生徒が企画し運営するなど、生徒のリーダーシップを育成できるよう、内容や実施方法を工夫し充実させる。	(1) ア・学校教育自己診断(生徒)「高校が楽しい」の肯定率75%以上[73.7%]、「学級は楽しい」の肯定率80%以上を維持[81.0%] ・学校教育自己診断(生徒)「文化祭は楽しい」の肯定率90%以上[84.6%]、「体育祭は楽しい」の肯定率84%以上[83.3%]	
	イ 部活動の活性化	イ・校内環境や施設を整備し、部活動の活動や発表の場を充実させ、体験入部やクラブ発表会を活用して部活動加入率の向上をめざす。	イ・部活動加入率35%以上を維持[37.0%]	
	(2) 人権教育の推進 ア 様々な人権課題の解決を推進	(2) ア・人権教育計画の改善を図り、様々な人権問題(子ども、同和問題、男女平等、障がい等)の解決につながる教育活動を推進する。	(2) ア・学校教育自己診断(生徒)「伯太高校の人権教育は、あなたが学びたいことに応えている」の肯定率80%を維持[85.7%] ・学校教育自己診断(生徒)「さまざまな立場の人や自分たちの人権について学ぶ機会がある」の肯定率90%以上[87.7%]	
	イ 個別の支援が必要な生徒への対応	イ・人権上配慮の必要な生徒等について、週1回の会議及び対応検討会議(不定期)を活用し、SCやSSW、外部機関との連携を組織的に行い、個別の支援を適切に行う。また、ヤングケアラーの可能性のある生徒の状況把握を適切に行い、教育活動における必要な支援を図るとともにSCやSSWとの連携を行う。	イ・生徒情報の把握、共有及び個別の支援計画等の検討を組織的に行う。SCやSSWを活用し、具体的な対応により状況を改善する。また、ケースについて研修を実施し、共有を図る。	
	(3) 地域等とつながる取組み ア 地域等との連携	(3) ア・現行の取組みを継続し、中学校との連携を充実させるとともに、企業や専門学校等との連携によりキャリア教育と地域貢献の意識の醸成を図る。	(3) ア・地域、中学校等との連携行事への参加、学校独自の地域清掃活動等、地域を活用した防災教育等を3回実施。 ・企業、学校を招聘したキャリア教育の充実(1年生5時間、2年生10時間以上)[1年生5時間、2年生17時間]	
	イ 外部連携を活用した選択科目の充実	イ・系列学習の充実のため、令和6年度に向けた選択科目の内容充実のための専門学校や短期大学、保育所等の地域施設との、協議、連携を進め、連携授業の試行を実施し、授業の充実を図る。	イ・地域、保育所等の外部施設、小学校、専門学校や大学と連携した取組みの授業への活用。外部講師の活用60回以上[95回]	
4 教職員の育成等	(1) 組織的・継続的な育成 ア 教職経験の少ない教職員の育成	(1) ア・ミドルリーダーに教員研修を企画させ、研修内容に合わせた授業研究や分掌業務のOJTを全体で進める。特に経験の少ない教員については、全教員がかかわる機会を設定し、教師力を総合的に高めるとともに小集団の組織を活用した育成を図る。	(1) ア・年10回以上の教員研修の実施[10回] ・学校教育自己診断(教職員)「経験少ない教職員を育成」の肯定率60%以上を維持[68.8%]	
	イ ミドルリーダーの育成	イ・教職経験年数が10年までの教員を学校組織の中核として配置し、振り返りや協議の場を定期的に設定し育成を図る。	イ・首席、分掌長や学年主任及びその候補を継続的に育成	
	(2) 働き方の改革 ア 業務の工夫・改善	(2) ア・会議の整理、分掌業務のスリム化と効率的な引継ぎの活用等、工夫・改善を促す。	(2) ア・分掌業務の引継ぎの効率化、教材等の共有化	
	イ 教職員の長時間労働を改善	イ・教職員の長時間労働を改善するため、業務全般を見直し、分掌業務の改善を図るとともに、教職員に業務の工夫・改善を促す。	イ・年間の時間外在校等時間720時間を超える教育職員をゼロ。[0人] ・年間の時間外在校等時間が360時間を超える人数を前年度よりも減少させる[14人]	
	ウ 部活動の適正な実施の徹底	ウ・部活動の活動計画の徹底を図る。また、個々の勤務実態に応じた土日の部活動の制限	ウ・部活動の活動計画の遵守・徹底 ・活動報告書に基づく指導 ・個々の教員の業務全体を見た土日の部活動制限	